

藤田寛之 福田正博 川内優輝 仁志敏久 大神雄子

# スポーツ

## 7月1日

センバツ高校野球が開催中止となってしまった。球児たちには無念で残酷な決断となった。世の中の状況を鑑みれば妥当な判断だが、一生にそうあるチャンスではない。泣き崩れる気持ち、おぼろげに理解しようとする。

## センバツ中止次の目標を

ユウは立花さんならでも、重いものはかりを扱うので、当時のウエーントレーニングとは一線を画していた。ある時、立花さんがこう話した。ケガと不振にあえぎ、目標を見失いかけて弱気になっていた時期を思い出した。球児たちの失望感に比べれば抱えていた時期があった。

当時、よく相談相手となっていた。治療の間でできることを最大限にし、時間を有効活用する。今ある現実をチャンスと受け止め、逆に、今だからできることにじっくり取り組む。もちろん、いつもそう受け止められるわけでもないし、思ったまうにリハビリが進むとも限らない。しかし、ケガを経験することによって得られる感情や新たな目標設定というものはある。

それまでは、とにかく自分のスタイルを貫くことばかりを頑張るしかない。どんなに素晴らしいプレーヤーでも試合に向かうまでは準備しかできない。今回の中止に泣いた球児たち、この無念を踏みつぶし、強くたくましい選手になって次のチャンスに臨んでほしい。

また、ケガのため2軍で調整していた03年、桑田真澄さんが、「3話してくれた。」人生、いつ何が起るかかわからないんだから頑張っておけよ。少し投げやりには「はい」と答えたが心に留め、現実と向き合う努力をした。その言葉は翌年現実となり、不振から一転、1番打者として1年間プレーし、28本塁打を放つなど自信を取り戻した。

先が見えないのなら、今を生きるしかない。今できることを頑張るしかない。どんなに素晴らしいプレーヤーでも試合に向かうまでは準備しかできない。今回の中止に泣いた球児たち、この無念を踏みつぶし、強くたくましい選手になって次のチャンスに臨んでほしい。

（野球解説者）

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

「メジャーなどの考え方は、ケガをしてもレアルアップをして戻ってくることを目標にするんだ」

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

その意味はすぐ理解できない。やるだけやっつけてダメな

大神雄子

仁志敏久

川内優輝

福田正博

藤田寛之

# スポーツピア

4/4 日経

新型コロナウイルスの影響は深刻さを増すばかりだが、バスケットボール女子のWリーグも2月23日を最後にリーグ戦が打ち切られ、一時は無観客開催が発表されたプレオフも中止になった。状況が刻一刻と変

## 選手置き去りにしない

わる中、短期決戦に備えて何とか心身のピークを持っていくこととしていた選手の気持ち悪さを思うと気の毒でならない。一方で一連の流れを振り返ると、Wリーグの節目節目の対応が「アスリートファースト」だったのかと疑問を抱かざるを得ない場面も多い。無観客でのプレオフ開催が発表されたのは3月13日。

この際、選手への聞き取りなどはなかった。よって選手にアンケートが届いたのは、同月23日に残り全日程を中止すると発表した直前のこと。同時期にチェアマンがメディアの前に立って何度も会見し、方針を示した男子のBリーグと比べると後手後手に回ってしまったという印象だ。Bリーグはプロで、Wリー

意見交換したと聞く。世界ランキング10位で、東京五輪でメダルを狙う日本女子のトップリーグがこのままで良いのだろうか。そんな疑問を以前から抱いていた私は、2018年に現役を引退して日本協会のアンバサダーになった際、「選手が選手会をつくりたいと考えているか、アンケートを取りたい」

輪の20年夏の開催について、世界中のアスリートが声をあげていた頃だ。私も国際バスケットボール連盟(FIBA)選手委員会の委員の一員として、世界中のメンバーとSNSを使って活発に意見交換。数日で五輪延期などを求める文書を作成し、FIBAの中央理事會に提出した。その後選手委員会のチェアマンであるノビツキー氏からのフィードバックをテレワークで受けた。各大陸の委員が時差を超え、SNSで意見をまとめられるのが今の時代だ。やり方はいろいろでも、選手もリーグ側の将来設計や課題を共有できれば、これまでに以上に意識を高く持てるはず。再び突発的な事態が起きた時に今回を教訓にできるよう、今から動いてほしい。(バスケットボール女子日本代表元主将)

グは実業団。親会社がかいて意思決定に時間がかかる面はあるかもしれない。ただ、それ以上に私が問題だと感じるのはWリーグには選手が意見を言える場がないことだ。男子には日本バスケットボール連手会(JBPA)という組織があり、会長の田口成浩選手(千葉)らがBリーグの再開や中止を巡ってチェアマンと

とWリーグに働きかけたものの、断られた経験がある。Wリーグの大半の選手は社員だから、所属先のことを気にして普段は積極的に意見が言えないのかもしれない。でも、それならばなおさら何かあった時に選手がためらわず発言できる場を確保しておくべきではないのか。3月中旬はちょうど東京五

代表元主将)